

歴史的建造物がもつ「しなやかさ」(レジリエンス)

—被災・修理を社会学・環境学の研究者も交えて考える—

日時：2023年3月19日(日) 15時~17時30分

場所：Zoomによるオンライン

問合せ・申込先：takumi-n@toitech.ac.jp (東北工大・中村)

内容主旨

宮城県沖地震、東日本大震災、福島県沖の地震と岩手・宮城・福島の歴史的建造物は繰り返しの地震被害を受けている。修理箇所が再度、同様な被害を受けるという、修理の繰り返しも多数報告される。もちろん現代の補強工事や材料によって、繰り返しの被災・修理の連鎖を改良する技術が必要である。

一方で、減災の知恵で根本的被害を回避しながら、修理の繰り返しによって継承をはかる「しなやかさ」が、とりわけ日本の伝統木造建築の特徴という面も無視できない。修理の繰り返しは、地場産業・技術・材料・地域社会の継承を促した面もある。歴史的建造物の脆弱性ととも、「しなやかな回復力(レジリエンス)」の伝統を見つめ直すこともまた、保存修復の考え方を深化させるためには、大切ではないだろうか。

そこで本シンポジウムでは、文化財修理や木造耐震といった建築学からの事例報告の後、社会学や環境学の研究者からも、歴史的建造物や町並みを支えるしなやかな社会・環境を見つめる視点を報告いただき、保存修復や文化財防災の考え方を深める機会としたい。

司会・主旨説明 中村琢巳(東北工業大学、日本建築史)

伝統木造建築の脆弱性としなやかさ

パネリスト

1. 高橋直子(伝統建築研究所、修復建築家) 繰り返される地震と修理事例
2. 中尾方人(横浜国立大学、木質構造学) 伝統木造建築の耐震性能評価と補強
3. 平井太郎(弘前大学、社会学) 町並みを守るレジリエントな地域社会
4. 山田一裕(東北工業大学、水環境工学) 北上川河口域ヨシ原の東日本大震災による被災と再生

討論

まとめ 速水清孝(日本大学、建築史、日本建築学会東北支部長)

